

国名 カンボジア	助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト
-------------	------------------------

I 案件概要

事業の背景	日本政府は、国立母子保健センター（NMCHC）建設及び技術協力プロジェクトを通じて、カンボジア政府の母子保健サービス体制の構築を支援した。しかし、技術及び経験のある助産師は必要とされる人数に対し不足していた。特に地方における助産師不足が深刻であった。さらに、助産師への研修の質が担保されていないため、助産ケアサービスの質については問題があった。この問題を解決すべく、カンボジア保健省は助産師の人数増加のための政策を策定した。保健省は地方における助産師の増加及び地方のリファラル病院での卒前・卒後研修の質向上を優先に置いた。		
事業の目的	本事業は、NMCHC 及びモデル州の助産トレーナー研修及び助産師の卒前・卒後研修を通じて助産師研修システムの強化を図り、もって根拠に基づいた質の高い助産ケアサービスの増加に貢献することを目指した。		
	1.上位目標：助産師が提供する妊産婦と新生児ケアの利用とアクセスが向上する。 2.プロジェクト目標：根拠に基づいた質の高い助産ケアの提供が可能となる助産トレーニングシステムが強化される。		
実施内容	1. 事業サイト：プノンペン、コンポンチャム地域の4州（コンポンチャム、コンポントム、プレイベン、スヴァイリエン） 2. 主な活動：1) NMCHC,コンポンチャム州病院及びモデル地域での助産トレーナーへの根拠に基づいた通常の出産時の助産ケアに関する研修、2) ガイドライン及び研修教材の作成、3) 本事業での経験や課題の他地域への共有、4) 助産師能力開発の課題や教訓の国家戦略・プログラムへの統合 3. 投入実績		
	日本側 (1) 専門家派遣：22人 (2) 研修員受入：21人 (3) 第三国研修：5人（ブラジル） (4) 機材供与：研修機材（例：分娩モデル、ANCモデル、ドップラー胎児心拍検出器等）、車両、事務所機材（PC、ソフトウェア、プリンター、プロジェクター等） (5) 現地業務費：研修活動費、現地スタッフ給与、旅費等	相手国側 (1) カウンターパート配置：59人 (2) 土地・施設：NMCHC 執務室、コンポンチャム州病院の研修施設、事務什器 (3) 現地業務費：執務室及び事務什器の維持管理費	
事業期間	2010年3月～2015年8月 （延長期間：2015年3月～2015年8月）	事業費	（事前評価時）420百万円、（実績）435百万円
相手国実施機関	保健省（MOH）、国立母子保健センター（NMCHC）、コンポンチャム州病院（PH）、コンポンチャム州保健局（PHD）、コンポンチャム地方看護・助産学校（RTC）		
日本側協力機関	なし		

II 評価結果

1 妥当性

【事前評価時・事業完了時のカンボジア政府の開発政策との整合性】

本事業は、母子保健の重要性を強調した「国家戦略開発計画」（2006年～2010年）、「国家戦略開発計画」（2014年～2018年）、「保健戦略計画」（2003年～2007年及び2008年～2015年）というカンボジアの開発政策に合致していた。

【事前評価時・事業完了時のカンボジアにおける開発ニーズとの整合性】

本事業は、特に地方における技術・経験のある助産師及び出産時の質の高い助産ケアに対するカンボジアにおける開発ニーズに合致していた。

【事前評価時における日本の援助方針との整合性】

本事業は、社会的弱者支援である基本的保健サービスを含むベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）に応えるサービス提供の強化を重視した「対カンボジア国別援助計画」（2002年）と合致していた。

【評価判断】

以上より、本事業の妥当性は高い。

2 有効性・インパクト

【プロジェクト目標の事業完了時における達成状況】

事業完了時まで、プロジェクト目標は達成された。根拠に基づいたケアのうち、「有効で推奨されるべきケア」が増加し（指標1）、「危険で効果がないケア」は対象病院2カ所で減少した（指標2）。出産した女性が、女性にやさしいケアを受けたと感じた割合は、NMCHCでは53%から100%に、コンポンチャム州病院では53%から87%に増加した（指標3）。また、「根拠に基づく助産ケア」に関する助産学生の知識の向上した（指標4）。コンポンチャム州病院で実施した助産研修の数は51回に上り、そのうち37回は研修部によって完全にサポートされた（指標5）。

【プロジェクト目標の事後評価時における継続状況】

事業完了以降、プロジェクト効果は継続している。本事後評価では、ベースライン及びエンドライン調査で行った同じ手法を導入してフォローアップ調査を行うことが難しく、事業完了後のプロジェクト目標に対する5つの指標の実績データは得られなかった。そのため代替的に、本事業で導入した研修システムの継続状況を研修システムが継続されていれば事業効果は維持されているとの想定のもとで検証した。根拠に基づいた質の高い助産ケアサービスのための助産師研修システムは事業完了後も維持されている。本事業で導入された4週間の助産卒後研修及び1カ月 BEmONC研修はNMCHC及びコンボンチャム州病院にて継続的に行われている。

【上位目標の事後評価時における達成状況】

事後評価時までには上位目標は達成された。熟練人材の介助による出産の割合は、2008年53%から2015年にはNMCHCでは85.2%、コンボンチャム州病院では88.95%となり目標値を達成している（指標1）。また、保健施設での分娩率は、2008年35%から2015年にはNMCHCでは80.4%に、コンボンチャム州病院では88.95%となり目標値に達している（指標2）。さらに、上記2つの指標は2015年以降も80%以上を維持している。しかし、2つの指標の実績値は2013年には80%を上回っており、上位目標は2013年時点で既に達成していたと言える。出産サービスへのアクセスの拡大は、むしろ過去10年間の母子保健分野にもたらされた多くの変化に起因すると考えられる。主要な変化として、①助産師への金銭的なインセンティブを通じた施設ベースの分娩の推奨、②保健施設への助産師の配置の増加、③機能している保健施設の増加及び交通手段という保健施設への物理的なアクセスの改善、④産科緊急ケア提供に係る公立病院の能力改善、⑤「安全なお産」を推奨する政府のマスメディアキャンペーン、が挙げられる。他方で、上位目標達成のための本事業以外の他の貢献要素があったとしても、本事業により向上した助産師の能力及び助産サービスは、対象病院2か所での熟練人材の介助における出産及び保健施設での分娩を事業完了後も高い割合に保つことにも貢献した。

【事後評価時に確認されたその他のインパクト】

事業評価時点において、その他の正負のインパクトは、確認されなかった。

【評価判断】

よって、本事業の有効性・インパクトは高い。

プロジェクト目標及び上位目標の達成度

目標	指標	実績																		
プロジェクト目標 根拠に基づいた質の高い助産ケアの提供が可能となる助産研修システムが強化される。	(指標 1) 根拠に基づいたケアのうち「有効で推奨されるべきケア」が増加する。	達成状況：達成（継続） (事業完了時) <ul style="list-style-type: none"> ベースライン調査及びエンドライン調査の結果を比較すると、有効で推奨されるべき助産ケアの実施は、NMCHC 及びコンボンチャム州病院では 8 項目中すべてにおいて増加した。 (事後評価時) (1) NMCHC <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>研修コース</th> <th>研修回数</th> <th>研修を受けた助産師数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 週間の助産卒後研修</td> <td>3</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>1 カ月 BEmONC 研修</td> <td>10</td> <td>219</td> </tr> </tbody> </table> 注：対象期間は 2015 年 3 月～2018 年まで（ただし 2015 年 3 月～8 月までの事業実施延長期間を含む） (2) コンボンチャム州病院研修部 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>研修コース</th> <th>研修回数</th> <th>研修を受けた助産師数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 週間の助産卒後研修</td> <td>本研修は BEmONC 研修に統合された。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 カ月 BEmONC 研修</td> <td>18</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> 注 1：BEmONC：基礎的緊急産科・新生児ケア 注 2：対象期間は 2015 年 3 月～2018 年まで（ただし 2015 年 3 月～8 月までの事業実施延長期間を含む）	研修コース	研修回数	研修を受けた助産師数	4 週間の助産卒後研修	3	60	1 カ月 BEmONC 研修	10	219	研修コース	研修回数	研修を受けた助産師数	4 週間の助産卒後研修	本研修は BEmONC 研修に統合された。		1 カ月 BEmONC 研修	18	65
	研修コース	研修回数	研修を受けた助産師数																	
	4 週間の助産卒後研修	3	60																	
	1 カ月 BEmONC 研修	10	219																	
研修コース	研修回数	研修を受けた助産師数																		
4 週間の助産卒後研修	本研修は BEmONC 研修に統合された。																			
1 カ月 BEmONC 研修	18	65																		
(指標 2) 根拠に基づいたケアのうち「危険で効果がないケア」が減少する。	達成状況：達成（継続） (事業完了時) <ul style="list-style-type: none"> ベースライン調査及びエンドライン調査の結果を比較すると、危険で効果がない助産ケアの実施は、NMCHC では 12 項目中 8 項目において減少し、コンボンチャム州病院では 12 項目中 9 項目において減少した。 (事後評価時) <ul style="list-style-type: none"> 指標 1 の結果と同様 																			
(指標 3) 出産した女性が、女性にやさしいケアを受けたと感じた割合が増加する。	達成状況：達成（継続） (事業完了時) <ul style="list-style-type: none"> NMCHC では 53%から 100%に、コンボンチャム州病院では 53%から 87%に増加した（ベースライン及びエンドライン調査結果） (事後評価時) <ul style="list-style-type: none"> 指標 1 の結果と同様 																			
(指標 4) 「根拠に基づく助産ケア」に関する助産学生の知識の向上。	達成状況：達成（継続） (事業完了時) <ul style="list-style-type: none"> 学生の 70%以上の正答があった質問項目が 12 問中 9 問に上っ 																			

		<p>た。</p> <p>(事後評価時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標1の結果と同様 																
	(指標5) コンボンチャムで実施した助産研修の数	<p>達成状況：達成(継続)</p> <p>(事業完了時)</p> <ul style="list-style-type: none"> コンボンチャム州病院は助産ケアに関する研修を51回行い、内37回は州病院研修部によって全面的に支援を受けた。 <p>(事後評価時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標1の事後評価時の結果を参照。 事業完了後、コンボンチャム州病院では助産研修を継続して実施しており、2015年から2018年までの間、現職及び新規採用の助産師を対象に毎年4～5回の1カ月 BEmONC 研修を行っている。 																
上位目標 助産師が提供する妊産婦と新生児ケアの利用とアクセスが向上する。	(指標1) 熟練医療従事者(Skilled Birth Attendant: SBA)の介助による分娩率が58%(NHS2008値)から80%(2015年CMDG目標値)以上に増加し、2018年に維持されている。 *NHS2008: National Health Survey 2008 (2008年全国保健調査) *CMDG: Cambodia Millennium Development Goal (カンボジア・ミレニアム開発目標)	<p>達成状況：達成</p> <p>(事後評価時)</p> <p>(1) 熟練医療従事者の介助による分娩率 (NMCHC)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.2</td> <td>85.0</td> <td>89.0</td> <td>87.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 熟練医療従事者の介助による分娩率 (コンボンチャム州病院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.9</td> <td>83.0</td> <td>80.6</td> <td>83.1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 妊産婦と新生児ケアの技術を持ったSBA(助産師)の増加、伝統的な助産師の減少、コミュニティの保健教育、BEmONC研修、助産師連携協会チーム(MCAT) 会議により、目標値の80%は2015年に達成し2018年まで維持された。 	2015	2016	2017	2018	85.2	85.0	89.0	87.3	2015	2016	2017	2018	88.9	83.0	80.6	83.1
	2015	2016	2017	2018														
85.2	85.0	89.0	87.3															
2015	2016	2017	2018															
88.9	83.0	80.6	83.1															
(指標2) 保健施設での分娩率が39%(NHS2008値)から70%(2015年CMDG目標値)以上に増加し、2018年に維持されている。	<p>達成状況：達成</p> <p>(事後評価時)</p> <p>(1) 保健施設での分娩率 (NMCHC)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80.4</td> <td>80.5</td> <td>85.4</td> <td>84.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 保健施設での分娩率 (コンボンチャム州病院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.9</td> <td>83.0</td> <td>80.6</td> <td>83.1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 能力ある助産師配置数及び保健センターインフラ整備数の増加により目標値の70%は2015年に達成し2018年まで維持された。 	2015	2016	2017	2018	80.4	80.5	85.4	84.0	2015	2016	2017	2018	88.9	83.0	80.6	83.1	
2015	2016	2017	2018															
80.4	80.5	85.4	84.0															
2015	2016	2017	2018															
88.9	83.0	80.6	83.1															

出所：終了時評価報告書、NMCHCへの質問票回答及びインタビュー

3 効率性

事業費及び事業期間は計画を上回った(計画比：事業費104%、事業期間110%)。アウトプットは計画通り産出された。したがって、効率性は中程度である。

4 持続性

【政策制度面】

保健省が策定した「妊産婦・新生児死亡率削減のためのファスト・トラック・イニシアティブ展開計画」(2016年～2020年)及び「基礎的緊急産科・新生児ケア向上計画」(2016年～2020年)は、国内の妊産婦・新生児ケアシステムの向上による妊産婦・新生児死亡率の低減を促進している。

【体制面】

NMCHCにおける助産の卒前・卒後研修に関する制度構造の変化はない。カンボジアの産婦人科・新生児科のトップリファラル病院であるとともに母子保健人材を養成する国家研修センターであるNMCHCは、本事業で導入した4週間の助産卒業研修や1カ月BEmONC研修を含む助産師研修の計画及び実施を担っている。コンボンチャム州病院研修部は地域レベルの看護及び助産研修を担当している。他方で、保健省人材育成部が①人材育成に関する計画・管理、②研修、③保健人材の質の向上を管理している。本事業で育成された37人中36人の中心トレーナーが、87人中82人の助産トレーナーが所属医療機関で継続して業務している。

【技術面】

4週間の助産卒業研修実施頻度は減少したが、1カ月BEmONC研修は国連人口基金(UNFPA)の技術的及び財務的支援により継続的に定期的実施されており、コア・トレーナー及び助産トレーナーが研修技術と知識を維持できている。

NMCHCはドイツ国際協力公社(GIZ)の支援により、コンボンチャム州以外の研修部を設立するため、バタンバン州、タケオ州及びカンポット州の保健部を支援している。保健省によると、新しく設立された3つの州の研修部は機能している。本事業により作成または改訂された研修マニュアル及びガイドラインは、NMCHC及びコンボンチャム州病院で継続的に活用されている。

【財務面】

4週間の助産卒業研修及び特に1カ月BEmONC研修の予算は事業完了後もUNFPAの財務支援により継続的に割り当てられている。NMCHCでの助産師研修の実際の予算は69,798米ドル(2015年)、66,820米ドル(2016年)、62,526米ドル(2017年)、89,241

米ドル（2018年）、131,353米ドル（2019年）であり、予算支出及び予算配分の著しい増加は明らかである。NMCHCによると、2020年度の助産師研修のための予算は確保されている。他方、カウンターパート機関は研修ニーズに基づいた体系的な予算計画及び予算管理に慣れていないことが分かった。このことは、本プロジェクトにおいて出口戦略を検討する際に課題として認識されていなかったと思われる。NMCHCでは、カンボジア政府及び開発パートナーからの十分な予算確保のため、将来の資金計画を検討している。

【評価判断】

以上により、本事業によって発現した効果の持続性は高い。

5 総合評価

本事業は、助産師が提供する妊産婦及び新生児ケアへのアクセス向上というプロジェクト目標及び上位目標は達成された。持続性については、政策面、体制面、技術面、財務面において、特段の問題はみられない。効率性については、事業費及び事業期間ともに計画を上回った。

以上より、総合的に判断すると、本事業の評価は非常に高いといえる。

III 提言・教訓

実施機関への提言：

- 4週間の助産卒業研修及び特に1カ月 BEmONC 研修は主に NMCHC 及びコンポンチャム州病院研修部で提供された。このおかげでコンポンチャム州病院は助産師のための地域的な研修センターの役割を担うだけでなく、質の高い助産ケアの提供を行うことができた。よって、保健省へ4週間の助産卒業研修及び特に1カ月 BEmONC 研修を将来的に全土の医療機関に導入することを推奨する。

JICA への教訓：

- 技術協力により新たな研修制度の導入・定着を図る場合、財務計画、研修管理、監督、研修提供におけるカウンターパート機関の組織能力を考慮しつつ、持続的な研修実施資金の調達メカニズムについて、事業実施中に関係機関と協議しておくべきである。



コンポンチャム州病院研修部の外観



基礎的緊急産科・新生児ケア（BEmONC）研修の様子
（コンポンチャム州病院研修部）